

Central

Peripheral

CID=0x0001 (signaling)

CID=0x0001 (signaling)

チャネル開設

Connection Request (PSM, SCID)

#CIS番号(ID)
SDP=0x0001
RFComm=0x0003
→相手のチャネルのCID

Connection Response (DCID, SCID, Result=pending, status)

自分でエラーになる様子
検査する

このまま保留する場合
Result=fail
保留後の応答

Connection Response (DCID, SCID, Result=Success, status)

電文にはCIDを区別するので対応表が必要になる

最大
ERTX: 60~300ms

通常はfailもCIDはSuccessを即答する

通信パラメータ交換

Configure Request (DCID, Flags, Operation)

サポートしている機能やMTUサイズを交換して使用する機能、サイズを決定する

Configure Response (SCID, Flags, Operation)

Requestを送るタイミングは相手のRequestを送った後でもいい

DCID=SCID
0x0040

DCID=DCID
0x0041

アプリケーション間通信

CID=0x0001

チャネル開設

Disconnection Request (DCID, SCID)

Disconnection Response (DCID, SCID)

CID=0x0001

Request電文は必ず必ず送ってもいい

1つのシグナリング電文の中でチャネルID呼び出し論理通信IDを開設、開設されたシグナリング電文の中でチャネルID(CID)が必ずある。ここで電文を区別する。
シグナリング電文はCID=0x0001で区別される。
シグナリング電文に開設電文を送る事により、新しいチャネルが作られる。
立場を逆に言うと、開設電文が来た新しいチャネルを用意する。この時PSMという、アプリケーション間のやり取りを区別する。新しいCIDの電文が来た。そのアプリケーション間のやり取りは区別される。